

## 調査報告書の記入のポイント

地域密着型サービスのサービス評価は一定の基準を設けて画一化をはかるものではなく、事業所のサービスの質を確保し、さらなる向上につなげていくことが目的です。各項目の「考え方の指針」、「着眼点」に記載されているサービスの質や視点にそって、何をどのように実施しているのか、何がどのように実施されていないのか、事実を確認して下さい。

「取り組みを期待したい内容」は、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、管理者と調査員で話し合い、その事実を記入します。

「取り組みを期待したい内容」が一つも無かったりしませんか。事業所が質向上に取り組んでもらう機会を逃してしまいます。あるいは逆に、ほとんどの項目に「取り組みを期待したい内容」を記入していませんか。ハードルを高くしすぎることによって負担感やプレッシャーになったり、改善点が焦点化しにくくなります。評価が気づきとなり、実際に質向上に取り組むための動機付けになるよう、優先して改善に取り組んでもらいたい点を話し合い、その事実を記述して下さい。

## 調査報告書の記入方法

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<b>取り組みの事実欄の記入方法</b> ①事業所のケアサービスの現状や取り組み状況を具体的に記入します。 ②各項目の「考え方の指針(着眼点)」(※)にそって、実施している内容、していない内容の事実を記入します。 ③事業所の目標水準に照らし合わせて、実施が不十分な取り組みも事実として記入します。(さらなる向上につながります)	左記で実施していない内容、不十分な取り組みを記入した場合は○印を付けます。	<b>取り組みを期待したい内容欄の記入方法</b> ①「取り組みを期待したい項目」に○印をつけた場合、今後の改善目標や取り組んでほしい具体的な内容を記入します。 ②すでに改善への取り組みを開始している、あるいは継続して取り組んでいる事実があれば、すでに取組んでいることとして記入します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	※2006年11月、厚生労働省より示された「地域密着型サービス評価項目の考え方ガイドライン」		